

独立した第三者保証報告書

株式会社ブリヂストン
取締役 代表執行役 Global CEO
石橋 秀一 殿

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社(以下、「SOCOTEC」という。)は株式会社ブリヂストン(以下、「会社」という。)からの委託に基づき、会社が作成した主題情報(“環境・社会データ 算定結果(2022年1月1日～2022年12月31日)”および“拠点審査 算定結果(2022年1月1日～2022年12月31日)”)がすべての重要な点において規準に適合しているかについて限定的保証業務を実施した。

1 主題情報と規準

保証対象となる主題情報は、“環境・社会データ 算定結果(2022年1月1日～2022年12月31日)”および“拠点審査 算定結果(2022年1月1日～2022年12月31日)”に記載された株式会社ブリヂストンの国内外における生産拠点及び非生産拠点を対象範囲とする、“GHG 排出量及び環境・社会データ(別紙)に関する報告”である。

主題情報を作成する規準は“環境・社会データ 各手順書(2022年1月1日～2022年12月31日)”である。

2 マネジメントの責任

“環境・社会データ 算定結果(2022年1月1日～2022年12月31日)”および“拠点審査 算定結果(2022年1月1日～2022年12月31日)”は、会社のマネジメントによって作成された。

会社のマネジメントは、そこで行われている主張、陳述及び主張の完全性(限定的保証を提供するために従事してきた主張を含む)、報告書内の全てのデータ及び情報の収集、定量化及び提示ならびに適用した規準、分析及び公表に責任がある。

会社のマネジメントは、報告プロセスをサポートし、詐欺または過失によるものであるかどうかにかかわらず、“環境・社会データ 算定結果(2022年1月1日～2022年12月31日)”および“拠点審査 算定結果(2022年1月1日～2022年12月31日)”に重大な虚偽記載がないことを保証するように設計された適切な記録及び内部統制を維持する責任がある。

3 保証会社の責任

SOCOTEC の責任は、主題情報がすべての重要な点において規準に準拠して作成されているかどうかについて、限定的保証の結論を表明することにある。

SOCOTEC は、SOCOTEC の定める検証手順及び「ISO14064-3 温室効果ガスに関する主張の妥当性確認及び検証のための仕様並びに手引」並びに国際監査・保証基準審議会(IAASB)の国際保証業務基準(ISAE)3000(改訂)「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」に準拠し、限定的保証業務を実施した。

限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務で実施する手続と比べて、その種類、時期、範囲において限定されている。その結果、SOCOTEC が行った限定的保証業務は、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。

SOCOTEC が実施した手続は、不正又は誤謬を問わず重要な虚偽表示のリスクの評価をはじめとして、職業的専門家としての判断に基づいている。SOCOTEC の結論は、会社の内部統制に対して保証を提供するものではない。

SOCOTEC は、限定的保証における結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

4 保証手続

SOCOTEC が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、以下を含んでいるがそれらに限定されない。

- 会社が主題情報に関連して作成した方針や手続の評価
- 上記方針手続を理解するための会社担当者への質問
- 対象プロジェクトが適格性要件を満たしているかの確認
- 試算による根拠資料との照合、再計算
- 重要な仮定や他のデータに関する根拠資料の入手、照合
- 算定体制と手順の確認、データの収集及び記録管理の実施状況を確認するため、会社の本社、栃木工場、瀋陽普利司通有限公司、普利司通(天津)轮胎有限公司を往査した。

5 独立性と品質管理、力量の声明

SOCOTEC は、「ISO17021 適合性評価-マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項」の認定要求事項に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。又「ISO14065 温室効果ガス-認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項」に従ってマネジメントシステムを確立している。これらは国際監査・保証基準審議会による国際品質管理基準 1 と国際会計士倫理基準審議会による職業会計士の倫理規定における要求を満たすものであり、倫理規則、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の遵守に関する文書化した方針と手続を含む包括的な品質管理システムを維持している。

SOCOTECグループは、検査、試験、検証業務における総合的な第三者機関であり、世界の国々で品質、環境、労働及び情報セキュリティにかかわるマネジメントシステム認証業務やトレーニングサービスを実施しており、環境、社会情報のパフォーマンスデータ及びサステナビリティ報告書保証業務を行っている。SOCOTECは、本保証業務を依頼した組織やその関連会社、ステークホルダーからも独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触がないことを断言する。

本保証業務に携わったチームは、知識や当該産業分野における経験、そして本保証業務に関する力量基準に基づき構成されていることを保証する。

6 報告書の利用

限定的保証業務におけるSOCOTECの責任は、合意した条件に基づいて、会社のマネジメントにのみ負うものである。従って、目的にかかわらずそれ以外のいかなる個人や組織に関しても責任を負わない。

7 結論

SOCOTECが実施した手続及び入手した証拠に基づいて、主題情報が規準に準拠して作成、開示されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社
執行役員社長 二場 誠吾



Seigo Futaba
2023年6月7日

GHG 排出量及び環境・社会データ

表 1 GHG 排出量

単位：千 t-CO₂

項目		生産拠点	非生産拠点	合計
直接的な GHG の排出量 (スコープ 1) CO ₂ 注1注3	CO ₂	1,711	78	1,789
	CH ₄ +N ₂ O	5	0.3	5
	小計	1,716	79	1,794
エネルギー起源の間接的な GHG 排出量 (スコープ 2) マーケットベース CO ₂ 注1注2注3	CO ₂	1,370	133	1,503
	小計	1,370	133	1,503
エネルギー起源の間接的な GHG 排出量 (スコープ 2) ロケーションベース CO ₂ 注1注2注3	CO ₂	2,057	140	2,197
	CH ₄ +N ₂ O	8	0.5	9
	小計	2,065	141	2,206
温室効果ガス排出量 (スコープ 1& 2 合計) マーケットベース CO ₂ 注4	CO ₂	3,081	211	3,292
	CH ₄ +N ₂ O	13	0.8	14
	小計	3,093	212	3,306
その他の間接的な GHG の排出量 (スコープ 3) 注3参照				109,688
内 訳	カテゴリー 1			11,995
	カテゴリー 2			1,011
	カテゴリー 3			496
	カテゴリー 4			653
	カテゴリー 5			147
	カテゴリー 6			17
	カテゴリー 7			59
	カテゴリー 9			272
	カテゴリー 10			3
	カテゴリー 11			93,029
	カテゴリー 12			1,898
	カテゴリー 14			57
	カテゴリー 15			49

注1：別途算定したエネルギー起源の CH₄、N₂O 排出量の Scope1 & 2 の合計値を示している。

注2：スコープ 2 のロケーションベースとマーケットベースは、GHG プロトコルスコープ 2 ガイダンス 2015 年版の定義による。

注3：排出量の小計、合計は小数点以下を含んだ各項目の値の合計値であり、見かけ上各項目 (Scope3 の場合は各カテゴリー) の値の合計とは異なる。

注4：CH₄、N₂O は、ロケーションベースを使用した合算値。

表2 環境データ

項目	数値	単位
原材料使用量	4,389	千トン
再生資源または再生可能資源に由来する原材料の比率	38	%
(内 再生可能資源に由来する原材料の比率)	26	%
(内 再生資源に由来する原材料の比率)	12	%
エネルギー総消費量（生産拠点＋非生産拠点）注1	45,132	千 GJ
(内 エネルギー総消費量（再生可能エネルギー）)	4,702	千 GJ
(内 エネルギー総消費量（非再生可能エネルギー）)	40,429	千 GJ
エネルギー消費量（燃料）	25,959	千 GJ
(内 再生可能エネルギー消費量)	315	千 GJ
エネルギー消費量（購入電力）	5,012	千 MWh
(内 再生可能エネルギー消費量)	1,189	千 GJ
エネルギー消費量（購入蒸気）	1,111	千 GJ
エネルギー消費量（太陽光発電等）	30	千 MWh
売電量	25	千 MWh
総取水量	68,039	千 m ³
取水量（表流水）	3,217	千 m ³
取水量（地下水）	8,942	千 m ³
取水量（上水道・工業用水）	16,954	千 m ³
取水量（海水）	38,927	千 m ³
水ストレス地域における生産拠点の総取水量	2,712	千 m ³
水ストレス地域における生産拠点の取水量（表流水）	438	千 m ³
水ストレス地域における生産拠点の取水量（地下水）	641	千 m ³
水ストレス地域における生産拠点の取水量（上水道・工業用水）	1,633	千 m ³
水ストレス地域における生産拠点の取水量（海水）	0	千 m ³
RRC(タイヤの転がり抵抗)低減等による CO ₂ 削減貢献量(2020 年比)	2,854	千 t-CO ₂
NOx 排出量	1,875	トン

SOx 排出量	500	トン
廃棄物排出量	285	千トン
廃棄物再資源化量	268	千トン
廃棄物再資源化率	94	%
廃棄物埋立量	17	千トン
規制有害廃棄物排出量	25	千トン
規制有害廃棄物再資源化量	21	千トン
規制有害廃棄物埋立量	3	千トン
プロダクトサーキュラリティー 注2	98	%
資源生産性	9.36	億円/千トン
ISO14001 取得率	100	%

注1：検証プロセスを通じて、エネルギー消費量の売上高原単位のデータを確認した。

注2：回収した使用済み製品が有効活用された割合。

表3 社会データ

項目	数値
従業員及び派遣社員の休業度数率	2.74
協力会社の休業度数率	0.62
従業員及び派遣社員の重傷度数率	0.08
協力会社の重傷度数率	0.06
従業員及び派遣社員の職業性疾病度数率	0.68
女性比率	
－ 日本	12.2 %
－ 日本セグメントのうち、(株)ブリヂストン	8.5 %
－ 米州	12.6 %
－ 欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ	12.6 %
－ 中国・アジア・大洋州	9.7 %
－ 合計	12.0 %

注：社会データ検証時に、従業員及び派遣社員の死亡者数、協力会社の死亡者数を確認した。